

オンライン研究プラットフォーム BOLD

－ 発達科学における研究協力者と研究者の新たな連携モデル －

加藤正晴¹・土居裕和²・孟憲巍³・村上太郎⁴・梶川祥世⁵・大谷多加志⁶・上原 泉⁷・箕浦有希久⁸

(¹同志社大学・²長岡技術科学大学・³名古屋大学・⁴常葉大学⁵・玉川大学・⁶京都光華女子大学・⁷お茶の水女子大学・⁸佛教大学)

目的

コロナ禍以降、オンラインによる調査は一般的な研究手法となった。しかし対面調査と比べても実施に負担を感じることも多い。こうした負担を取り除き、研究者および研究協力者が共に満足のいく研究環境を実現することを目的として我々は Baby's Online Live Database (BOLD) を立ち上げた。

方法

BOLD は、包括的オンラインプラットフォームである。まず、従来、研究者が個人で行っていた参加者のリクルートを BOLD が一括して行うことにより、研究者の負担を軽減している。研究者は自らの研究テーマに沿う研究協力者像を伝えるだけで、対象者の抽出が可能となる。調査方法において、BOLD はオンライン同期型実験、オンライン非同期型実験に加え、質問紙調査、装置郵送による調査、対面調査など、研究目的に応じた柔軟な選択肢を提供している。特に自宅から調査への参加が可能になることで、研究協力者にとっても参加への負担が軽減している。全国から研究協力者を募集することができることは、参加者の地域多様性を増加させる点で優れている。

さらに、BOLD は研究協力者の研究参加履歴を保持することで、新しい形の縦断研究を可能にする。これにより、ある研究者が実施した研究に参加した乳幼児を対象として、別の研究者が発展的な研究を実施することができ、単独では困難だった長期的な発達追跡が実現可能となる。

実際的な利点として、BOLD が研究協力者への連絡や支払いを代行するため、研究者は研究協力者の個人情報を取得することなく調査を実施できる。つまり研究者は個人情報の管理の手間を減らすことができる。これらの特徴により、BOLD は従来の研究手法の限界を克服し、より効率的で包括的な乳幼児発達研究の実施を可能にしている。

実例

これまでに 11 の調査が BOLD を使って実施された。郵送による質問紙調査、オンラインのアンケート調査、zoom を使った選好注視法の実験、計測機器を郵送して行った実験など多岐にわたる。現在、研究協力者の近隣の研究室で行う対面調査の準備も進められている。ポスター発表時には具体的な調査とその方法、海外における同様の取り組みについて紹介する予定である。

議論

BOLD は、従来の対面調査と相補的に機能し、より幅広い研究デザインや参加者層へのアクセスを可能にする。今後、技術の進歩によりオンライン調査の適用範囲がさらに拡大することが予想され、BOLD のようなプラットフォームの有用性は一層増すと考えられる。

しかし、BOLD の発展には課題もある。このプラットフォームは研究協力者と研究者の双方が増加することで成長するため、両者の数をバランスよく増やしていくことが不可欠である。また、長期的な安定運用のためには、競争的資金に依存しない持続可能な財源の確保が必要となる。

これらの課題に柔軟に対応するため、2024 年夏に一般社団法人を設立した。法人化に伴い、研究者からの調査依頼プロセスを簡素化し、オンラインフォームを通じた直接的な依頼を可能にする予定である。さらに、新設したウェブサイト (<https://www.bold.or.jp/>) を通じて、研究者向けの情報提供と一般向けの研究成果発信を強化する。これにより、BOLD の活動の透明性を高め、より多くの参加を促進することを目指している。

こうした取り組みを通じて、BOLD は乳幼児発達研究の新たな可能性を切り開き、研究者と研究協力者をつなぐ重要な架け橋となることが期待される。